

㊦ 024 get used to doing 「～することに慣れる」

構文150には

- ・ get used to doing 「～することに慣れる」
- ・ be used to doing 「～することに慣れている(状態)」

という2つの構文が紹介されていますのでそれらの解説をしていきます。

○どうして use を使うと「慣れる」になるのか？

「慣れる」という日本語が使われ始めたのは平安時代あたりです。例えば「更級日記」には、

「たれもいまだ都なれぬほどにて、え見つけず」

[訳] だれもがまだ都に慣れていないころなので、見つけ出すことができない。

という記述があります。また「なれる」という日本語に関連して「習う(ならう)」「倣う(ならう)」「慣う(ならう)」という3つが関連しているという記述も残っています。広辞苑では3つが同語源であるという表記もなされています。繰り返して「習ったり(学習したり)」「倣ったり(模倣したり)」することで「慣れていく」という意味合いがあります。

英語の use が「慣れる」に転じたのもそれに近いものがあります。英語の場合「(繰り返し)使っているうちに慣れていく」という語の意味変化が起きたわけですが、したがって use 自体に「慣らす」という意味がありました。これを受け身にした形が「be used(慣らされた)=慣れる」になります。

○be と get

Be 動詞は「何かの状態」を表すときに用います。したがって「be used to doing」だと「～することに慣れている(状態)だ」という意味が出てくるわけです。

対して get は「何かの状態に“なる”」という意味を持ちます。つまり状態が変化するときに使う語であることがわかります。したがって「get used to doing」だと「～することに慣れる」という意味になります。

○補足

- ・ to の後に動名詞が来ることをおさえておいてください

・ 実生活では get used to の方が多いですが、受験では be used to の方が多いです。ただし両方使えますので両方覚えておきましょう。

・ used を accustomed という単語に置き換えることもできます。Be accustomed to にした場合、堅い表現になります。